

とうごう 歴史発見! 魅力発信!!

にわうじしげ 丹羽氏重の城が東郷町にあった?



3月号は、丹羽氏重(前編)についてのお話でしたが、今回は丹羽氏重の居城・傍示本城の歴史についてお話します。

氏重は1584年(天正12年)の「小牧・長久手の戦い」が起こるまでの数年、短期間ではありますが、傍示本城主としてこの地を治めました。丹羽氏が傍示本城に入る前は、地元の領主・加藤氏が在城していたと伝わります。その歴史は鎌倉時代後期にまで遡ります。3代目の加藤時利は祐福寺の造営にも関わったとされる人物です。しかしながら、傍示本を丹羽氏が治めるようになった経緯など、詳しいことは何も分かっていません。氏重はこの城でどんな暮らしをしていたのでしょうか。傍示本の地を馬で駆け回っていたかもしれませんね。

現在、傍示本公民館の傍に「傍爾本城址」の石碑がありますが、城址は公民館から南側一帯と推定されています。整地や埋め立てにより、城の遺構^{※1}の状況は不明ですが、城の東側の断崖は当時のおもかげを残しています。廃城後も北・南・西の三方に堀^{※2}が残存していたようです。傍示本城は土造りの城で方形の「城館」であったと思われます。「城館」とは、その土地を治める領主の住居に堀や土塁^{※3}を巡らせ、防御機能を高めた建物のことです。また、公民館がある「市場屋敷」の地名からは城下が賑わっていたこともうかがえます。傍示本城は一体どのような姿をしていたのでしょうか。想像は膨らむばかりです。

次回は、傍示本城だけじゃない? 東郷町にある丹羽氏ゆかりの城、諸輪北城・中城についてご紹介します。

- ※1 遺構…昔の建造物や生活の痕跡が地面や地中に残ったもの
- ※2 堀…土を掘って造った溝のこと
- ※3 土塁…土を盛って造った土手のこと

【文】岩崎城歴史記念館 学芸員 内貴健太

◎問い合わせ 生涯学習課 ☎0561・38・7780



傍爾本城址碑(傍示本公民館前)



傍示本城址の区域(伝承)



傍示本城 東側の断崖

東郷町公式 LINE

東郷町公式 Twitter

東郷町公式 Instagram

Catalog Pocket いつでもどこでも気軽に読める!

10言語対応配信中!

シティプロモーション動画「ちょうど級タウン東郷町」

◀左のコードを読み取ることで視聴できます。